

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370822

研究課題名(和文) 東洋学学術資産としての石濱文庫の基礎的研究

研究課題名(英文) A fundamental studies of ISHIHAMA collection, Osaka University Library

研究代表者

堤 一昭 (Tsutsumi, Kazuaki)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：70283835

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大阪大学の石濱文庫所蔵の研究資料2種類の調査を行った。(1)石刻拓本：隋唐時代墓誌銘の目録を公刊した。貴重拓本の修復と画像撮影を行った。(2) 満洲国期のモンゴル語新聞『フフ・トグ』の研究集会を主催・共催し、成果を公開した(OUFC booklet, vol.7, 9)。1941年刊行分の紙面と記事索引を共同で作成、公開した(OUFC booklet, vol.10(1), (2)。 附録のcalendar と地図の修復・画像撮影・レプリカ制作を行った。

研究成果の概要(英文)：This project researched 2 sorts of historical materials in ISHIHAMA collection, Osaka University Library, and (1) published catalog of rubbings of the Sui and Tang Dynasty epitaphs; selected, repaired academically valuable rubbings, and made their scanning data; (2) co-organized three symposiums on the Koke To , a Mongolian newspaper issued in the Manchukuo, co-edited and published the revised proceedings (OUFC Booklet7 and 9); published the images of the Koke To issued in 1941, and co-edited and published its article index (OUFC Booklet 10-1 and 10-2); repaired calendars and maps as the Koke To 's supplements, made their scanning data of them.

研究分野：アジア・アフリカ史

キーワード：東洋学 学術資産 石濱純太郎 石刻拓本 満洲国 モンゴル語新聞

1. 研究開始当初の背景

近代日本の「東洋学」における第一世代(内藤湖南、白鳥庫吉ら)に続く第二世代も含めた研究者の蓄積した蔵書(史料と研究文献の双方)・研究資料を「学術資産」として、現在の東洋学研究(歴史学・文学・語学・美術など)に活用するための基礎的な調査・研究・公開がこれまでなされず、活用できていない現状がある。

それらの蔵書・研究資料を精査し、価値あるものをデジタルアーカイブとして整備して、現在の国内外の学界に提供することは、現代の研究者の責務であると考えた。その顕著な例が、大正期から戦後の昭和期に大阪で活躍し、国際的な人脈も持った、第二世代の東洋学者であった石濱純太郎(1888年~1968年)の収集資料「石濱文庫」(大阪大学附属図書館所蔵)である。

2004年以来、個人研究・共同研究により石濱文庫の各資料群の現在の研究状況から見た価値、資料収集の背景となった人的ネットワークの拡がりの概要把握を行ってきた。文庫資料を広く利用可能な形で提供したり、多分野の専門研究者による総合的な調査・研究を行ったりする前の段階で、それらの準備となる基礎調査・研究が不可欠であることが明らかになった。また資料の物理的な劣化も進んでいるため、その点からも早急な調査・研究が急務となっていた。

2. 研究の目的

本研究計画は、石濱文庫の多様な研究資料(拓本、資料写真その他、図書・逐次刊行物。未整理のものを多数含む)を精査し、その中から現在の研究水準から見て学術的価値の高いものを選び、デジタルアーカイブとして国内外の学界に提供するための基礎的な調査・研究を行うこと、また所蔵資料を利用した先端的な研究を活性化させることを目的とした。

3. 研究の方法

石濱文庫資料全体の中から学術的価値の高い資料群を選定し、資料群ごとに調査・整理などの方針を決定する。具体的には、石刻拓本資料(約1300点)と満洲国期のモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』(ほぼ全号が揃うのは世界でも石濱文庫のみ)を研究の主な対象とした。

石刻拓本資料については、全般的に a. 学術的、美術的な価値と物理的な劣化の度合いの判定と、また b. 目録作成が可能なものの選定を行った。a. については1935年の内モンゴル学術調査(いわゆる「ミッション羽田」)で収集された拓本、および美術的に価値の高い拓本、合計26点を選定し、専門業者に依頼して、裏打ち・修復・デジタル画像撮影を行う(今後の研究・公開、特に企画中の博物館展示にも備えるもの)。b. は、未整理であった隋唐時代の墓誌銘拓本を選定し、

目録作成を行う。

満洲国期のモンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』は、実物と過去に撮影された紙面データをもとに、この資料を研究してきた国内外の研究者たちとも協力しつつ、どのように先端的な研究を活性化させることが可能かについて調査・研究を行う。研究の具体的な方法、成果、今後の展望について討議する研究集会を開催し、成果を公開する。

4. 研究成果

[2014年度]

石濱文庫所蔵の石刻拓本(約1300点)を、優先度に応じて再整理した(劣化防止のため保存専用の中性紙の封筒、箱に入れ直す)。そのうち、隋唐時代の墓誌銘拓本については、全点の目録データを整理作成し、3月に公開した。

8月に中国・鄭州大学で開催された「第八屆現代中国与東亜新格局國際學術討論會暨第三屆近現代河南与中国學術研討會」に参加し、石濱文庫所蔵『元朝帝后像』、『フフ・トグ(青旗)』附録の人物カレンダー等の画像の歴史的意味についての報告「近代国民国家シンボルとしての君主/指導者画像の出現 - 中日の比較から -」を行った。

12月に研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」を大阪大学豊中キャンパスで開催した(主催:NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点(政治史資料研究班)、共催:本科研、21世紀課題群と中国(大阪大学未来研究イニシアティブ))。堤による「『フフ・トグ(青旗)』ほか近代史資料の調査・整理の現状と公開にむけて」を含めた国内外5人の報告と討論が行われた。そこでは、本資料の保存とデジタル化による公開・学術利用に向けて、本資料をめぐる研究の現状を知り、国際的な学術ネットワーク形成の実現可能性を探った。その内容を共編したOUFCブックレット vol.7を刊行・公開した。

[2015年度]

9月にワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデータベースの構築・公開に向けて」を開催した(主催:本科研、21世紀課題群と中国(大阪大学未来研究イニシアティブ)、共催:NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点(政治史資料研究班))。堤による「石濱純太郎と石濱文庫:整理・調査・研究の現状」を含めた国内外5人の報告と討論が行われた。前年度の研究セミナーの成果をふまえて、紙面画像、多言語による目次データなどを統合したデータベース構築に向けた具体的な作業について議論を行った。その内容を編集し、および1941年5月分の紙面、それに対応する記事索引2種を付したOUFCブックレット vol.9を共編で刊行・公開した。

[2016 年度]

石濱文庫所蔵の石刻拓本資料のうち、学術的価値と劣化の度合いから裏打ち・修復・デジタル画像撮影を行うもの合計 26 点を選定し、専門業者に依頼した。具体的には 1935 年の内モンゴル学術調査(いわゆる「ミッション羽田」)で収集された拓本と女真文、西夏文を含む拓本、および美術的な価値も高い龍造寺碑、伊闕佛龕碑である。

石濱文庫の特徴であるモンゴル学資料収集の起源について考察した「石濱純太郎の“モンゴル学事始”」を含む『フフ・トグ(青旗)』の 1941 年刊行分の誌面を掲載した OUFU ブックレット vol.10 - 1 『大阪大学石濱文庫所蔵『フフ・トグ/青旗』(1941 年)』を共編で刊行・公開した。

8 月に開催された第十回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境：史料・認識・対話」(大阪大学中国文化フォーラム他主催)でのシンポジウム「文化資産と共同研究：戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ』を展望する」の企画に参加し、座長を務め、ここでの成果を含めた『フフ・トグ』記事索引の共同編集を開始した。

[2017 年度]

OUFU ブックレット vol.10 - 2 『モンゴル語新聞『フフ・トグ/青旗』記事索引初稿(1941 年)』を刊行・公開した(索引は、モンゴル文字モンゴル語、そのローマ字転写、日本語要約の三部分からなる。pp.3~449 の日本語要約部分の校訂を担当)。

学術的価値が高く物理的な劣化の進んでいた『フフ・トグ(青旗)』附録のチンギス・カン像ほかのカレンダー 2 点、世界地図 2 点を修復・デジタル画像撮影・研究/展示のためのレプリカ作成を専門業者に依頼した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

堤一昭,「石濱純太郎の“モンゴル学事始”」,大阪大学中国文化フォーラム,OUFU ブックレット,vol.10(1) (ISSN2187-6487(オンライン)), i - iv, 2017 年 2 月, 査読無し, DOI 無し, オープンアクセス・可

(<http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol10-1/hajimeni.pdf>)

堤一昭,「『フフ・トグ(青旗)』ほか近代史資料の調査/整理の現状と公開にむけて」,『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて』OUFU ブックレット vol.9 (ISSN2187-6487(オンライン)), pp.5 - 14, 2016 年 3 月, 査読無し, DOI

無し, オープンアクセス・可

(<http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol9/tsutsumi.pdf>)

堤一昭,「石濱純太郎と石濱文庫：整理・調査・研究の現状」,『戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性 東洋文庫政治史資料研究班・研究セミナーの記録』OUFU ブックレット vol.7 (ISSN2187-6487(オンライン)), 2015 年 3 月, pp.5 - 13, 査読無し, DOI 無し, オープンアクセス・可

(<http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol7/tsutsumi.pdf>)

堤一昭,「大阪大学附属図書館所蔵石濱文庫の隋唐時代墓誌拓本」,『待兼山論叢 文化動態論篇』, 48 号, pp.1 - 17, 2014 年 12 月, 査読無し, DOI 無し, オープンアクセス・可
(https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/56604/mre_048_001.pdf)

[学会発表](計 3 件)

堤一昭,「『フフ・トグ(青旗)』ほか近代史資料の調査・整理の現状と公開にむけて」, ワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」, 2015 年 9 月 19 日, ワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構築・公開に向けて」, 大阪大学待兼山会館, 主催: 21 世紀課題群と中国(大阪大学未来研究イニシアティブ), 堤科研(東洋学学術資産としての石濱文庫の基礎的研究), 共催: NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点(政治史資料研究班)

堤一昭,「石濱純太郎と石濱文庫：整理・調査・研究の現状」, 研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」, 2014 年 12 月 20 日, 大阪大学豊中総合学館, 主催: NIHU 現代中国

研究・東洋文庫拠点（政治史資料研究班），
共催：21世紀課題群と中国（大阪大学未来研
究イニシアティブ）/堤科研（東洋学学術資
産としての石濱文庫の基礎的研究）

堤一昭，「近代国民国家シンボルとしての
君主/指導者図像の出現 - 中日の比較から
-」，第八屆現代中国与東亞新格局国際学術
討論会暨第三屆近現代河南与中国学術研
討会，中国・郑州大学，2014年8月24日，国
際学会（proceedingsあり，《论文集》pp.686
- 699），主催：郑州大学历史学院・郑州大学
近现代河南与中国研究中心・日本大阪大学中
国文化论坛・台湾東華大学历史学系・南开大
学历史学院

〔図書〕（計4件）

『青旗』研究会編 [堤一昭，pp.3~449の
日本語訳部分の校訂担当]，『モンゴル語新聞
『フフ・トグ/青旗』記事索引初稿（1941年）』，
大阪大学中国文化フォーラム，OUFCブックレ
ット vol.10(2)（ISSN2187-6487(オンライ
ン)），452p.，2017年7月，査読無し，オー
プンアクセス・可

（[http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/
box5/vol10-2/full%20contents.pdf](http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol10-2/full%20contents.pdf)）

大阪大学中国文化フォーラム編（担当の共
編者：堤一昭，田中仁），『大阪大学石濱文庫
所蔵“フフ・トグ/青旗”（1941年）』，大阪大
学中国文化フォーラム，336p.，2017年02月，
査読無し，DOI無し，オープンアクセス・可
（[http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/
box5/vol10-1/full%20contents.pdf](http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol10-1/full%20contents.pdf)）

田中仁，堤一昭共編，『戦前期モンゴル語
新聞『フフ・トグ(青旗)』データベースの構
築・公開に向けて』OUFCブックレット vol.9
（ISSN2187-6487(オンライン)），大阪大学中
国文化フォーラム，141p.，2016年3月，査

読無し，DOI無し，オープンアクセス・可
（[http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/
box5/vol9/full%20contents.pdf](http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol9/full%20contents.pdf)）

堤一昭，田中仁，『戦前期モンゴル語新聞
『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開
の可能性』東洋文庫政治史資料研究班・研
究セミナーの記録』，OUFCブックレット
vol.7（ISSN2187-6487(オンライン)），
127+ii p.，大阪大学中国文化フォーラム事
務局，2015年3月，査読無し，DOI無し，オ
ープンアクセス・可
（[http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/
box5/vol7/fullcontents.pdf](http://www.law.osaka-u.ac.jp/c-forum/box5/vol7/fullcontents.pdf)）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堤一昭 (TSUTSUMI KAZUAKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：70283835